

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 教育学研究科
教育学部

組織目標		達成状況(成果)
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	<p>1. 優秀な学生の確保 ①入試委員会を中心として、高校訪問等積極的な学生獲得方策を行うとともに重要な情報発信源であるHPを一層充実させる。 ②AO入試の検証を行い、入試方法の改善等を検討する。</p> <p>2. 教育活動の実質化の推進 ①学部では、バージョンアップした教員養成コア・カリキュラム(ver.2)により教育活動の充実を図る。 ②教育学研究科では、研究指導体制の充実を図るとともに学会等での研究発表を推進する。</p> <p>3. 教育実習の充実 附属学校園との連携をより一層密にし、教育実習の充実に努める。</p>	<p>●学生確保に繋がるよう、入試委員会を中心として、高校訪問を継続して行うとともに、AO入試を中心とした入試情報や学部の構成・特色等についてわかりやすく紹介し、デザインにも工夫を凝らした広報用リーフレットを作成した。また、より詳しい案内用の大判リーフレットを学部と大学院に分けて作成した。HPについても、トップページから「入試情報」ページへのリンクを新設するなど使いやすくした。また、8月に開催したオープンキャンパスには、例年を大きく上回る2,500人もの生徒が訪れ、受験生の教育学部への関心の高さがうかがえた。</p> <p>●AO入試の検証について、入試方法別の教員就職状況を把握するとともに、全ての課程・コースについてAO入試の課題を問い合わせ、次年度のAO入試について検討している。</p> <p>●平成22年度入学生から新しくカリキュラムに導入された「教職実践演習」に向けて、教員養成コア・カリキュラムを改訂(ver.2)した。また、「教職実践ポートフォリオ」を改訂(ver.2)し、具体的な行動目標指標を構築し到達目標を明示した。このポートフォリオ等は、教職実践演習の到達目標を達成するために、中教審答申に準拠して、岡山大学独自の教育実践力を構成する4つの力とその下位の4項目ごとに、岡山大学における1年次から4年次の教育実習前後の目標到達の確認指標を提示した履修カルテ例として、文部科学省初等中等教育局教職員課から全国の課程認定大学にメール配信され高い評価を得た。</p> <p>●教育学研究科では、複数教員による指導体制を整え、これまで実施してきた研究計画書の提出に加え、修士論文に関する中間発表会を制度化するなど、指導方法についても改善した。</p> <p>●教育実習については、学部教員と附属学校園教員が一体となって、実習に関する事前・事後指導を含めて徹底した指導をしている。また、本年度より教師教育開発センターとも連携して、附属学校園におけるサポーター・ボランティア活動の企画と実施を行った。</p> <p>●教育学研究科では、ONECUSプログラムによる東北師範大学との交流を実施し、平成22年度についてもダブルディグリー2名、短期留学3名の学生を受け入れた。またJICAからガーナ国の教員研修の依頼を受け8月17日から9月15日の期間に12名を受け入れた。さらに、南アフリカからの国際交流による教員雇用など国際化を推進している。</p> <p>●教育活動の実質化を目的として、「岡山大学における学士課程教育の構築について」、「総合大学が担う特色ある教員養成の質保証」、「大学院における教員養成カリキュラムの改善と課題」等を主題とするFD研修会を5回実施した。さらに、17回の授業公開・ピアレビューが実施され、授業実践の在り方のみならず、カリキュラム編成に関する意識をも高めることができた。また、学内COEI支援的評価によるFDと大学院教育改善一やる気を生む評価で教員と院生のコンピテンシーが伸びる一」の調査研究の一環として、フィンランド、イギリス、韓国の大学院及び、東京学芸大学、福井大学の調査及び研修会を行った。</p> <p>●全学教職コア・カリキュラムの構築、組織的指導体制の確立、教職実践演習の開講や教育実習に係る実践的指導の充実を図るため、附属教育実践総合センターを組織再編し、全学組織として教職実践演習の推進を図る。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
研 究	<p>1. 外部資金の獲得 研究科独自の外部資金獲得方策を検討し、その成果を基に科研申請率・獲得率を向上させる。</p> <p>2. 研究の推進 学系単位などのプロジェクト研究を計画し、教育学研究科独自の研究を推進する。</p> <p>3. 共同研究の推進 附属学校園と連携して、教育実践に関する共同研究を推進する。</p>	<p>●本年度は、CST養成事業の採択、平成22年度補正予算の措置、平成23年度特別経費の内示等、教育学研究科として教員養成に関する大きな外部資金を獲得することができた。また、研究領域とは異なるが、教員免許状更新講習について、昨年度を大幅に上回る、必修1,163名、選択2,263名の受講があり、決算においても、約760万円の黒字となった。</p> <p>●科研申請率・獲得率の向上については、実務家教員の増加や特任教員制度の導入の影響もあり一挙に向上することは困難であるが、若手研究者への支援に取り組み長期的に成果を挙げようとするネットワーク構築に努めている。</p> <p>●心理・臨床学系教育臨床心理学講座の安藤美華准教授は、「中学生における「ネット上のいじめ」に関連する心理社会的要因の検討」で、平成22年度日本学校保健学会賞を受賞した。</p> <p>●心理・臨床学系教育臨床心理学講座の山本力教授は、平成22年度第24回福武哲彦教育賞を受賞した。</p> <p>●教育学研究科一貫教育専門委員会と附属学校園に設置している一貫教育委員会が連携して、「幼小一貫教育」をテーマに教育実践に関する共同研究を推進している。また、各学校園の授業カリキュラムを共有し、附属学校園の教員同士及び教育学研究科の教員とのコミュニケーションを可能とするネットワーク「附属学校園SNS」を構築し、試験運用を開始した。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
社 会 貢 献	<p>1. 岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会と締結している連携協定により、地域における教育の充実・発展に寄与する。</p> <p>2. 附属学校園12年一貫教育の実質化を図り、附属学校園一貫教育専門委員会等により、地域を先導する教育実践モデル校としての役割について検討する。</p>	<p>●教育学部及び教育学研究科と岡山県・岡山市教育委員会との連携体制の強化と協力事業の活性化のため、3者による合同連携協力会議を10月に開催した。岡山県教育次長、岡山市教育長らの出席をいただき、教職大学院の評価と課題、教員養成に関する事項、教員研修に関する事項等、教育の充実・発展に寄与する方策についてまとめた。</p> <p>●岡山県・岡山市教育委員会及び倉敷市教育委員会と連携し、学生の学校支援ボランティア活動・インターシップ事業等の運営を学部内に設置したスクールボランティアビューローが担う体制を確立した。</p> <p>●地域を先導する教育貢献を目指して、一貫教育体制の実施に向けたシステムの構築を進めており、附属学校園に設置の一貫教育委員会及び学部長・副学部長・正副校園長で組織する正副校園長会において毎月検討を進めている。</p> <p>●幼稚園の3年保育への一本化、小学校の低学年・中学年複式学級の廃止と40人学級から36人学級への変更については、順調に年次進行中である。</p>
	達成度： ④ 3 2 1	
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法：前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法：4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年：正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額	
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。</p> <p>本年度の入学生から必修化された「教職実践演習」の到達目標を達成するために、中教審答申に準拠して開発している「教職実践ポートフォリオ」は、目標到達の確認指標を提示した履修カルテ例として、文部科学省、国立教育政策研究所をはじめとして全国的に注目され高く評価されている。さらに、附属学校園の一貫教育体制の推進、JSTの理数系教員養成拠点事業への採択、平成23年度特別経費の獲得を契機として、学校・教育行政との連携をより強化し、全国の教員養成教育のモデルとなる体制整備を推進する予定である。</p>		

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。